

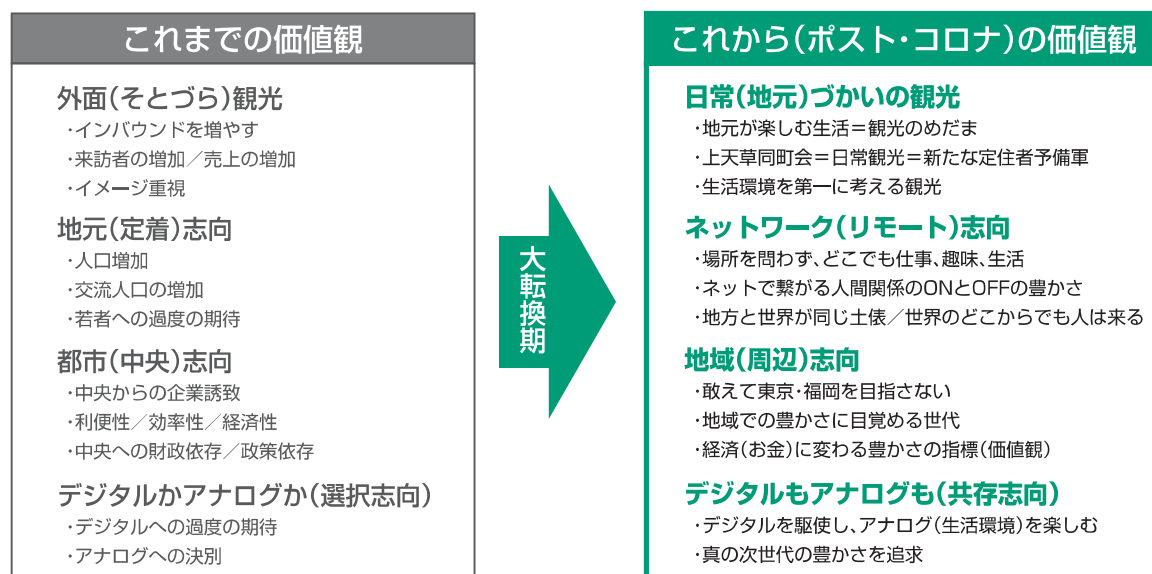
宮津地区のあり方について

①社会状況の変化への対応

コロナ以後で変化する価値観への対応

新型コロナウイルス後の社会は確実に変化します。3密の都市での生活に見切りをつけ、地方をめざす動きは確実なものになります。IT やリモートでの仕事の可能性が認識され、最新デジタルとアナログ的な生活の豊かさを同時に享受する価値観が定着してくると思われます。

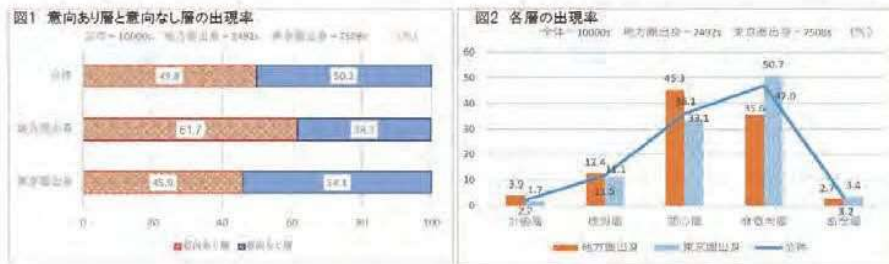
宮津地区を含む上天草は、抜きん出た「観光地」ではありません。むしろ自然環境に囲まれた日常生活の延長上に「観光」を位置付けた魅力作りが重要です。単に「観光＝経済」という旧来型の発想から転換し、「観光＝生活＝新しい価値観の創造」と位置付けた戦略が必要です。



東京圏在住者の約半数が、地方圏での暮らしに関心あり

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が東京圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)在住者の「東京圏以外の地域(地方圏)での暮らし(以下「地方暮らし」)」の意識・行動を把握するためのWEBアンケート調査(令和2年1月)とグループインタビュー(令和2年2・3月)を調査では「地方暮らし」への関心の高さが見られました。

- (1)東京圏在住者の49.8%が「地方暮らし」に関心を持っている【報告書 p.14】
東京圏在住者のうち、「意向あり層」は49.8%を占めました。内訳は、関心層36.1%、検討層11.5%、計画層2.2%です。(図1、図2参照)
- (2)地方圏出身者に限れば6割強が関心を持っており、東京圏出身者よりも高い【報告書 p.14】
地方圏出身者の「意向あり層」出現率は61.7%で、東京圏出身者の45.9%と比べて15.8%ポイント高い結果となりました。(図1参照)



若者の農山漁村地域への旅行意欲が高い。 テレワーク・ワーケーションは若年齢層、マイクロツーリズムは 高齢層において旅行意欲が高い。

民泊に関するサービスを展開する(株)百戦錬磨が今年6月25日に行ったインターネットアンケート調査によれば、農山漁村地域への旅行意欲が高まっていることがわかりました。



新しい生活様式を踏まえた農山漁村地域への旅行目的(年齢別)

年齢	テレワーク・リモートワーク先としての滞在	ワーケーション先としての滞在	地域の魅力を再発見できる近隣の旅行先(マイクロツーリズム)	社員旅行・研修旅行先	子供や孫の教育旅行先	スポーツ団体や文化団体などの大会や合宿	その他
20代	15%	46%	59%	11%	16%	7%	5%
30代	17%	35%	61%	13%	28%	5%	3%
40代	13%	25%	51%	7%	16%	5%	10%
50代	13%	18%	67%	5%	8%	5%	8%
60代	5%	11%	66%	7%	9%	6%	13%
70代	6%	7%	70%	4%	11%	8%	12%
総計	12%	24%	62%	8%	15%	6%	8%

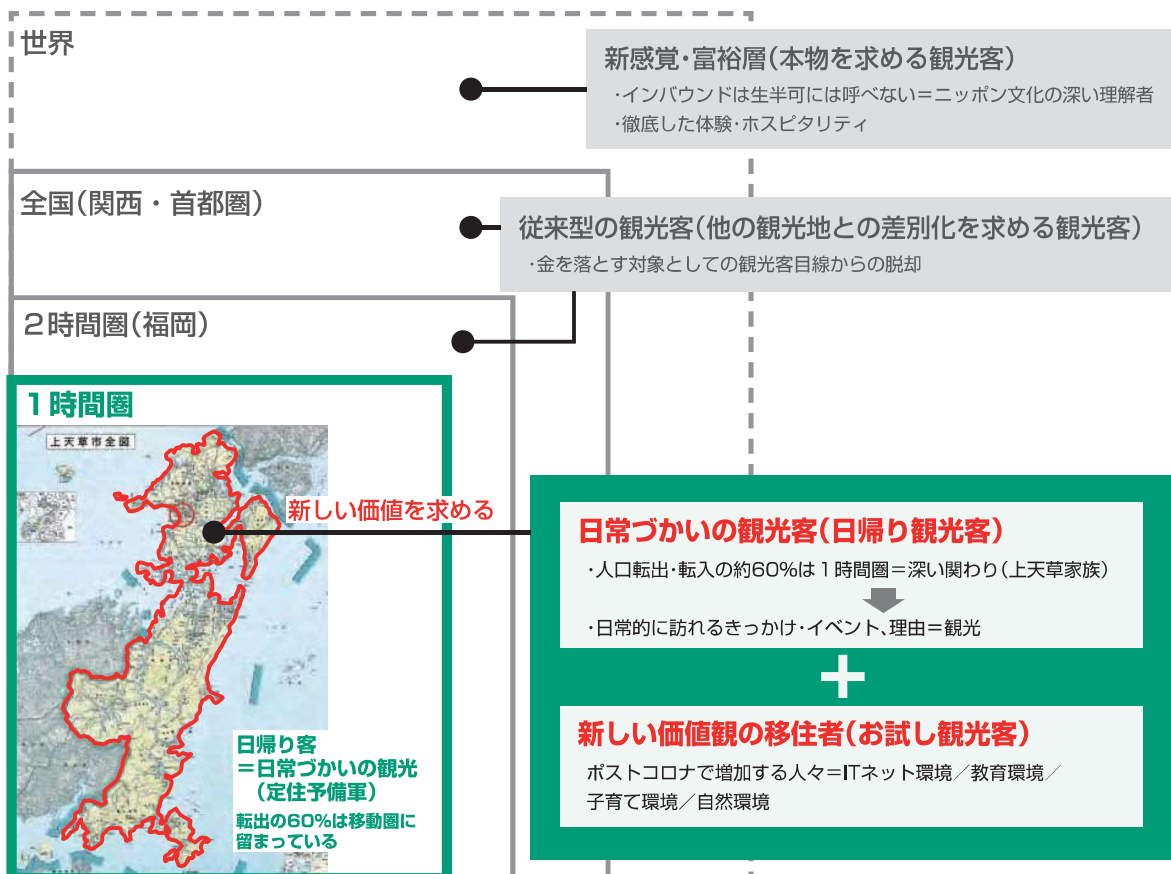
N=1000

②新しい観光客の獲得

「日常づかいの観光客」 + 「新しい価値観の移住者」

人口減少社会の進展と通信技術の発展により、都市から地方への移住者や観光に対する考え方が近年大きく変化している。コロナウィルスの感染拡大は、この流れに拍車をかけています。

従来からの観光地である天草地域において、特に生活関連施設と観光施設が近い距離に集積する宮津地区では、日帰りを中心にした「日常づかいの観光客」や、長期滞在や移住を視野に入れた「新しい価値観の移住者」を新たに取り込むことによって、前島地区との差別化による来訪者の増加や居住環境の改善につなげることが重要です。



宮津地区の観光のあり方

日常使いの観光客(日帰り観光客)の事例

福岡県八女市白木地区

白木地区は八女市中心部から車で30分、福岡市からも高速道路でおよそ1時間圏内に立地する。収穫祭などの地域イベントには、1時間圏内に転出した家族やその友人などで大変賑わっている。



収穫祭の様子

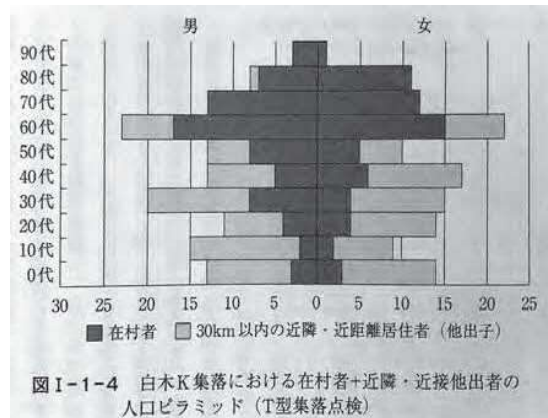


図 I-1-4 白木K集落における在村者+近隣・近接他出者の人口ピラミッド (T型集落点検)

『T型集落点検とライフヒストリーでみえる
家族・集落・女性の底力 限界集落論を超えて』
徳野貞雄、柏尾珠紀著 農文協 より

新しい価値観を持ったお試し観光客(将来の移住者)の事例

徳島県神山町

神山町は徳島市から車で1時間程度の人口約5000人の山村であるが、町中に光ファイバーを整備したことで仕事をしながら長期滞在する人が徐々に増え、移住や会社の移転により増えた若者が地域の新しい仕事の創出に貢献している。

朝日新聞(社会)2012年6月23日

IT企業 集う山の町

WiFi環境の整備 → ワークーションで来訪 → 移住 → 町に新しい仕事を創出

③市内観光拠点との差別化

日常使いの観光は経済や雇用だけではなく、「生活の質」を上げる

宮津地区は明らかに前島地区とは異なります。おなじ「観光」でも、上天草から転出した旧島民など身近なファンを取り込み、島民、旧島民の方々のためのイベント、利便性などを向上し「生活の質」をあげることが間接的な「観光」施策となります。

■宮津地区観光拠点

日常(地元)づかいの観光

- ・中高年利用の温浴施設: スパ・タラソ天草
- ・従来型の「旅館」的宿泊施設
- ・警察、消防、福祉センター、陶芸など生活関連の集積
- ・日常的な風景、景観

「利便性」「健康」「歴史」「教育」「生活」



ターゲット(対象者)の違い



明確な差別化(方向性の違い)

■前島地区観光拠点

外面(来訪者)向けの観光

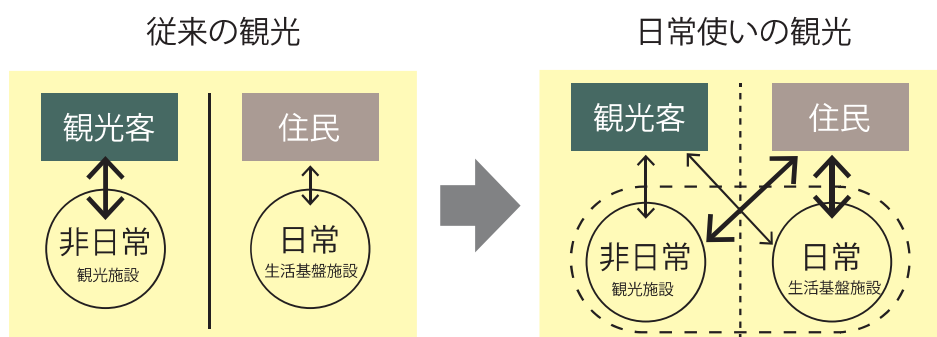
- ・若い感性の施設(デザイン性): リゾラテラス天草など
- ・観光アクティビティ: シークルーズ、イルカウォッチング
- ・高級路線宿泊: 天空の船など
- ・天草の自然景観: パールライン、5橋など

「デザイン」「高級」「リゾート」「体験」「時間」



機能の再編・複合化による「日常使いの観光化」イメージ

1 時間圏内の家族を日常生活の延長で訪れる「日常づかいの観光客」と考えると、従来の観光施設だけでなく、「日常の買い物」や「健康づくり」の分野も観光ニーズの一部として捉えることができます。それら「日常づかいの観光客」は、デザインや通信環境の充実など都市的生活環境への志向も高いことから、既存の機能を再編、複合化しながら充実、強化を図っていく必要があります。



「日常づかいの観光化」に向けては、宮津地区で建設予定の図書館の「観光の起爆剤としての図書館」や、長寿命化による既存施設を継続使用する老人福祉センターの「福祉と観光の融合」、上天草物産館さんぱーるやスパ・タラソ天草を中心とした「海とのつながりの強化」、さらにその他新たなアクティビティを加えていくことが考えられます。

- ①観光の起爆剤としての図書館
- ②福祉と観光の融合
- ③海とのつながりの強化(里海資本主義、農林水産物加工)
- ④その他、新たなアクティビティの追加

①観光の起爆剤としての図書館

近年、図書館をまちづくりや観光の拠点として多くの人が賑わう施設として整備する地方自治体が多くなっています。宮津地区においても、立地する天草四郎公園や隣接する天草四郎ミュージアムだけでなく、海や物産館、温浴施設などを回遊する拠点として有効に活用できます。

恩納村文化情報センター 沖縄県恩納村

図書情報フロアと観光情報フロアをあわせもち、情報発信拠点として観光客も訪れる。海に開かれた恩納村ならではの絶景を活かした「海辺のナイトシネマ」や「ライブラリーコンサート」などのイベント、サンゴに特化した調査研究活動やワークショップによる絵本やカルタづくりなどを行う。本の貸し出し冊数は年々増えている。



武雄図書館 佐賀県武雄市

民間企業とのコラボレーションにより、これまでの公立図書館のイメージを覆すような、雑誌や本の販売、カフェの併設など、新しいサービスを取り入れた画期的な図書館として多くの観光客も訪れる。借りた本をテーブルやテラスで、コーヒーやお茶を飲みながら、ゆっくり楽しめる。



②福祉と観光の融合

元気でかつ経験豊かな高齢者が活躍する、こうれからの高齢化社会では、高齢者は観光の重要なターゲットであることから、福祉施設も働いたり多世代で交流したりするなど積極的に社会とつながることが求められます。また、観光地に誰もが訪れやすいユニバーサルデザインを取り入れることは、観光客を呼び込むために重要な条件になっています。

百年草 愛知県豊田市足助町

デイサービスセンターに、ホテル、フレンチレストラン、手づくりハム工房、パン工房を併設し、日帰り入浴などの機能の他、社会福祉協議会による介護デイサービス施設も兼ね備えた、福祉と観光をミックスさせた新しい形の施設。



高校生レストラン「まごの店」 三重県多気町

三重県立相可高校食物調理科調理クラブが運営するレストラン。リーズナブルな価格と高校生による接客が人気で賑わっており、自治体からの補助を受けずに自主運営を行っている。地元に戻ってくる者や、飲食業に携わる者が増えた。卒業生の受け皿となる(株)相可フードネット「せんばいの店」が、「まごの店」卒業生3名を中心に惣菜とお弁当の店としてオープンした。



③海とのつながりの強化

農林水産物加工開発研究センターや栽培養殖を行う里海づくり協会は、観光施設ではありませんが、海との結びつきを体験する上で重要な施設です。そのため観光的視点から新たな機能の追加や体験事業を行うことによって、賑わいを創出する地域もあります。上天草物産館さんぱーるやスパ・タラソ天草、宮津海洋公園との連携などによって海とのつながりを強化することが可能です。

下松市栽培漁業センター 山口県下松市

今年4月に新たな魚種の生産と放流など栽培漁業の機能と、魚と触れ合えるタッチングプールや見学スペースなどの観光機能を併せ持つ施設としてリニューアル。来館者が8月31日の時点で、市が本年度の目標として掲げる1万人を達成。コロナウイルス感染症の影響で4月6日から約2カ月休館を余儀なくされたが、再開後は近場で遊ぶ場所を求め市民らに人気で、実質約3カ月と予想を上回る早さで目標に達した。



農林水産物加工品開発研究センター



くまもと里海づくり協会
大矢野事業場



海の資源を中心に経済の循環を考える
里海資本論

④その他、新たなアクティビティ

上天草市では、市内のスポーツ施設とホテル・旅館が連携してスポーツ合宿を推進するなど、気候風土や既存施設を活かした新たな取り組みを行っています。今後も、夏だけでなく、一年を通した来訪者、観光客の誘致に向けた新たなアクティビティを開発していく必要があります。

スポーツ合宿

年間を通して温暖な気候で、スポーツ施設が充実しており、さらに熊本県内屈指の観光地としてホテル・旅館・民宿の宿泊施設が多い上天草市の優位性を活かし、上天草市でスポーツ合宿等を行う団体等に費用の助成を行っている。



全天候型施設

雨の日や寒い日でも遊べる、子どもの遊び場の整備など、近年の気候変動や紫外線に対する健康意識の高さから、各地で全天候型施設のニーズが高まっている。

